

## 上関地点 平成30年度 環境監視調査結果について(報告書の概要)

平成30年度の水質調査結果は、管理目標値を満足していた。

陸生、海生生物については、過去の調査結果と比較しても顕著な変化は見られていない。

項目		調査時期	調査結果概要			
水質	陸域工事排水の水質	月1回	水素イオン濃度、浮遊物質ともに管理目標値内であった。			
			項目	調査結果	管理目標値	
			水素イオン濃度	6.8~7.6	5.0以上9.0以下	
			浮遊物質 (日平均値)	4mg/L 以下	150mg/L 以下	
陸生生物	ハヤブサ	4~6月:2回/月 2月:1回/月 3月:2回/月	平成30年度は、ヒナ及び幼鳥は確認できなかったことから、ハヤブサの繁殖は失敗した。 なお、各月で親鳥(雄・雌)を確認した。			写真1
	植生	春・夏 各1回 5月14, 15日 7月23, 24日	イヨカズラを7箇所18株、ジュウニヒトエを51箇所431株、イヌノフグリを5箇所57株、ギンランを1箇所2株、キンランを3箇所7株、ビヤクシンを1箇所1株確認した。			写真2
海生生物	潮間帯生物	年2回 4月17, 18日 10月23, 24日	植物ではヒジキ、イワノカワ科など54種、動物ではイタボガキ科、クロフジツボなど49種を確認した。 【確認種数】・植物:春51種, 秋:29種 ・動物:春39種, 秋:42種			写真3
	海藻草類		クロメ, サビ亜科など61種を確認した。 【確認種数】春56種, 秋:32種			
	底生生物		サザエ, ムラサキウニなど6種を確認した。 【確認種数】春6種, 秋:5種			
	スナメリ	3月~10月 (週1回・計32日)	確認回数は計41回, 延べ90頭を確認した。			
	カクメイ科等の貝類	年4回 5月8~10日 8月22~25日 11月19~21日 2月18~19日	カクメイ科の貝類は確認されなかった。 タイドプール※2箇所のうち1箇所は、岩盤の崩落があり、引き続き崩落の恐れがあるため、1箇所調査を実施した。			

※タイドプール:干潮時に海辺の岩場にできる潮だまり

### 【参考】

#### 《環境監視計画以外の環境調査》

##### ○カンムリウミスズメ(写真4)

平成30年度調査の結果、計画地点周辺海域において6回延べ12個体を確認した。

計画地点周辺海域において広く確認されたが、工事施行区域内での出現はなかった。

##### ○カラスバト(写真5)

平成30年度調査の結果、計画地点において、8, 9月に鳴き声を確認した。

なお、鼻線島においては5, 6, 8, 9, 11, 12, 1, 2, 3月に姿および鳴き声を確認した。

## 《その他》

○鼻線島におけるミサゴの繁殖状況について(写真6)

平成30年7月に2羽の幼鳥の巣立ちを確認できたことから繁殖は成功した。

今後もミサゴの繁殖が継続して行われる可能性があるため、引き続きの生息状況を確認する。

## 【調査写真】

写真1:ハヤブサ



(5月22日 親鳥(雄, 雌))

写真2: 植生



イヨカズラ



ジュウニヒトエ



イヌノフグリ



キンラン



キンラン

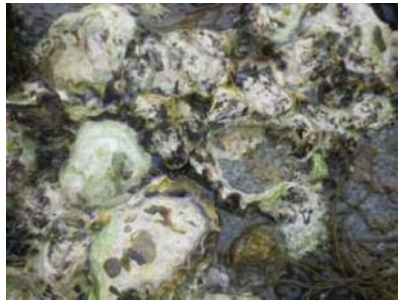


ビャクシン

写真3:海生生物



ヒジキ



イタボガキ科



クロメ



サビ垂科



サザエ



ムラサキウニ

写真4:カンムリウミスズメ



(3月15日 祝島の東)

写真5:カラスバト



(3月18日 鼻繰島)

写真6:ミサゴ



(7月18日 ヒナ(2羽))

【平成30年度環境監視調査結果に対する環境監視委員からの主なご意見】

項目	主なご意見
水質 (陸域工事排水)	水質調査結果は管理目標値内であり、大きな変化は見られない。
陸生生物 (ハヤブサ)	平成30年度は、幼鳥を確認できず、繁殖は失敗しているが、親鳥(雄・雌)の生息は確認している。
陸生生物 (植生)	調査結果は過年度調査の変動範囲内であり、顕著な変化は見られない。
海生生物 (潮間帯生物, 海藻藻類, 底生生物)	経年比較すると、出現数については多少の増減は見られるが、おおむね過年度調査の変動範囲内であり、主な出現種も顕著な変化は見られない。
海生生物 (スナメリ)	経年比較すると、1回確認当たりの頭数は過年度調査とほぼ同等であり、生息は周辺海域で広く確認されている。
海生生物 (カクメイ科等の貝類)	カクメイ科の貝類は確認されていないが、タイドプールの水質、底質については過年度調査の変動範囲内であり、顕著な変化は見られない。

以 上